

第2回通学路の更なる安全対策検討会（R4.10.19開催分）

会議録要旨

第2回検討会の趣旨として、田辺通6の短期対策、重点対策箇所の設定・対策の方向性、ソフト対策についての取りまとめに向けた方向性を確認するため、事務局より検討項目1から5について、第1回検討会以降の作業部会、有識者懇談会等を踏まえた、検討状況を報告し、意見交換を行った。

今後、全3回の検討会の中で整理・検討する項目と検討会以降も既存の枠組みを利用しながら引き続き検討が必要な項目を分けて整理するとともに、今回の第2回検討会で頂戴した以下の意見等を踏まえて、各検討項目について、有識者懇談会で情報共有しながら、関係機関等の協議・調整を進めていくこととなった。

（委員及びオブザーバーの主な意見）

- ・歩行者が横断歩道を渡ろうとするときに、歩行者とドライバーが相互に確実に視認できることで、事故のリスクを軽減できると考えるので、植栽撤去といった視認性の確保に向けた対策は早急を実施することが重要である。
- ・横断歩道部及び横断歩道手前のカラー化について、名古屋市の場合、通学路の通行位置を明示するために緑色を使用しているのであれば、横断歩道手前の緑色のエスコートマークはこれまでの整備思想の一貫性から逸脱するのではないかと考える。
- ・中長期対策の道路改築は地域への影響も大きく、いろいろな問題もはらんでくると思われるので、十分な検討・協議が必要である。
- ・田辺通6での事故は歩行者がルールを守っていたにも関わらず起きた事故であり、同様の事故が一定数ある中で、ハード面では対応しきれない部分を補うためにも、子ども自身が自らの身を守るために危険予測を養うようなコンテンツを検討する必要がある。また、ドライバーに対して、どのように法令遵守させるかということも啓発という観点で検討する必要がある。
- ・ドライバーや自転車に乗っている学生等がお互いにどこを見て運転しているのかを分析・理解することで、今後、教育の観点で活かせるのではないかと考える。
- ・今回の取組みにおけるキーワードとしては、見通しが挙げられるが、その点において通学路の総点検を実施すべきと考える。
- ・名古屋市は公共交通機関が発達しているにも関わらず、車の利用率が高いように見受けられるので、もっと公共交通機関を利用するような社会にしていき、車自体の総量を減らすことも重要であるとする。
- ・警察と自治体、地域が一体となり、子供の交通安全や防犯に係る各種活動等を推進することによって、地域力向上に繋がるのではないかと考える。